

平成 26 年度生田緑地マネジメント会議第 2 回運営会議 議事録

1. 日 時 平成 26 年 7 月 4 日(金) 18:30~20:30
2. 場 所 生田緑地東口ビジターセンター2F
3. 議事概要
 - 第 5 回 生田緑地の案内を考えるプロジェクトの報告
 - ・第 5 回 生田緑地の案内を考えるプロジェクトニュースレター・・・[資料 1]
 - みどりのサロンお試し開催の報告
 - ・生田緑地 みどりのサロン お試し開催レポート・・・[資料 2]
 - ・サロンの開催頻度について
 - (仮称)コア会議の位置づけについて
 - ・(仮称)コア会議の位置づけについて(案)・・・[資料 3]
 - 「生田緑地のルールについて」
 - ・生田緑地のルールについて・・・[資料 4]
 - 自然会議からの情報提供
 - 倉本先生のお話
 - マネジメント会議会員からの情報提供
4. その他の配布資料
 - ・次第
 - ・生田緑地マネジメント会議会員名簿
 - ・生田緑地を利用されるみなさまへ・・・[参考資料 1]
 - ・平成 26 年度 第 1 回運営会議議事録・・・[参考資料 2]
 - ・平成 26 年度 第 1 回運営会議ニュースレター・・・[参考資料 3]
5. 議事内容
 - 挨拶等
 - (事務局)
 - ・平成 26 年度生田緑地マネジメント会議第 2 回運営会議を開催する。
(配布資料の確認と議事の案内を行った。)
 - ・参加者 24 名で会議は成立した。
 - (会長)
 - ・梅雨でしっとりした生田緑地も良いなあと思いながら、この建物に入ってきた。
 - ・今日は倉本先生の話も聞くことができる。わからないことがあれば質問をし、充実した時間にして欲しい。
 - (事務局)
 - ・今回生田緑地運営共同事業体統括責任者が山之内から大井に変わったので紹介させて頂きたい。

(運営共同事業体 統括責任者)

- ・ 6月から統括責任者に就任した。しっかり運営をやらせていただきたいと思うのでよろしくお願ひしたい。

○報告事項【第5回 生田緑地の案内を考えるプロジェクトの報告】

(案内プロジェクトリーダー)

- ・ 昨年度の秋から開始したプロジェクトで、この春にも案内を実施した。元々は向ヶ丘遊園の会で春と秋に行ってきた案内を引き継いでもらった。
- ・ 向ヶ丘遊園駅からばら苑まで簡易看板があるのに、ばら苑の正面入り口にはないという状況が改善できた。
- ・ 商店街やセレサ川崎農業協同組合の方に参加して頂いて良かった。セレサ川崎農業協同組合さんの協力で、チラシを去年の4倍の4,000枚を印刷できた。また商店街連合会の協力で、店にばら苑の案内地図を置いて頂き地域連携を感じている。
- ・ 今年の春の案内では7人の専修大学インターンシップの意欲的な学生が協力してくれた。
- ・ このプロジェクトはマネジメント会議ができた成果だと思う。
- ・ 今後、生田緑地全体の案内をやっていききたいと思うので、引き続き皆さんの協力をお願いしたい。

(会長)

- ・ セレサ川崎農業協同組合の協力、商店街の連携、専修大学の協力があって実現ができた。

(会員)

- ・ 当日はチラシの配布に集中していたが、整備事務所の方がアンケートの集計を取っていることに感心した。

(生田緑地整備事務所)

- ・ 学生から、向ヶ丘遊園駅周辺は観光地だったことに気付き、生田緑地を観光資源としてPRしたいという意見があった。
- ・ 7月8日にプロジェクト会議が開催されるので参加してほしい。

(会員)

- ・ これまでに、いろいろな問題点が出ていたが、改善された点や課題として残されている事項について整理して報告してほしい。

(案内プロジェクトリーダー)

- ・ 最終的には「ふりかえりの会」でまとめて報告をしたい。

(生田緑地整備事務所)

- ・ プロジェクトで意見が出ていた、おし沼北のルートについては、整備事務所と自治会で話し合い、今年の春のばら苑開苑時に案内看板をおし沼北の交差点に設置した。案内がしやすくなり、利用者が増えたと思う。

○報告事項【みどりのサロンお試し開催の報告】

(事務局)

- ・ 6月12日18時半からビジターセンター2階で開催され32名の参加があつ

た。まず、民家園の畑山さんから古民家「工藤家」についての話題提供があった。

- ・ 意見交換の席では生田緑地の歴史、夜間利用などについて意見があり、コミュニケーションが取れたという参加者からの感想があった。
- ・ 今後も開催を続けたいと考えている。

(会長)

- ・ 予想していたよりも参加者が多くて驚いた。
- ・ 今後は2ヶ月に1回程度はどうかという意見が出ているが、開催頻度については流動的に決めたい。
- ・ 話題提供等の希望があれば、お話をお願いしたい。

○報告事項【(仮称) コア会議の位置づけについて】

(会長)

- ・ コアメンバーという会員の名称に混乱があった。運営会議は会員規約にもある通りコアメンバーの参加になっており、そのメンバーの会議かと思わせる。実際は会長と副会長が事前に行った打ち合わせから発展している。

(生田緑地整備事務所)

- ・ コア会議は、もっと会議の方向性について話したいという会員からの提案があって開催した。
- ・ コア会議の位置づけについて、参加者は会長・副会長のほか、コアメンバーの希望者を対象とすることとしたい。
- ・ 分かりやすい名称について、配布資料(資料-3)の案を見て決めたい。
- ・ 6月の会議は、役員、各施設長のほか商店街連合会の会員にも参加して頂いて16人で行った。

(会長)

- ・ 参加者は、提案の通り役員とコアメンバーの希望者を対象とすることで良いか。
→承認
- ・ 名称については、案の中から選んでほしい。

(会員)

- ・ 運営会議と混同しない名称が良い。会則を変えることになるので面倒であるが、コアメンバーの名称を運営委員にする案が良いのではないかと。

(岡本太郎美術館副館長)

- ・ この会議が運営会議なので、新しい名称には運営という名称は入らない方がよい。

(会長)

- ・ 挙手による多数決により、圧倒的多数で8番とする。
(8番:「コアメンバー」を「運営委員」と変えて、「コア会議」の名前は変更しないものとする。)
- ・ 次回に向けて準備を進めてほしい。

○報告事項【「生田緑地のルール」について】

(事務局)

- ・ ルールは対象者、立場によっても異なるのでいくつかの課題がある。課題を整理する必要性があったので、資料-4にまとめた。
- ・ 裏面に今度の進め方についての「案」を作成した。
- ・ 今後、コア会議でルールづくりの進め方の方針を決めて、第3回の運営会議で協議をしてルールの取りまとめを行っていききたい。
- ・ その次の段階としては周知・啓発の方向性を検討したいと考えている。

(生田緑地運営共同事業体協働担当)

- ・ ルールに関する指定管理の現状の取り組みについて説明をする。
- ・ 「生田緑地を利用されるみなさまへ」はこれまでの会議で既に紹介をしており、各施設で配布をしている。
- ・ 看板についても改修を行っており、「生田緑地内ルール看板の現状（指定管理者の取組）」にまとめた。景観に合わせて作成しており、自転車の押し歩き啓発の看板では自転車利用者も気付いて降りてくれている。
- ・ 問題の発生に合わせて臨機応変に作成しているが、生田緑地のルールに合っているか否かの検討については今後行っていききたい。

(会長)

- ・ 施設によってもルールは異なる可能性がある。
- ・ 今後の進め方は、案の通りに進めたい。
- ・ 指定管理者の看板は、盗掘の防止などに効果を発揮しており評価したいと思っている。
- ・ 気付いた点があれば、まめに事務局に連絡してほしい。

○報告事項【自然会議会からの情報提供】

(自然会議会長)

- ・ 自然会議は、昨年度頻繁に開催したが、今年度は年4回の開催とする。
- ・ 1回目と4回目は会議メンバーで議決をする。2回目と3回目については自然会議会員以外にも参加者を募って勉強会を行いたい。
- ・ 8月10日10時～12時ビジターセンター2Fで「遺伝子から見る植物の見方」について、遺伝子について研究している学生から話題を提供してもらう予定である。話しを聞いた上で新しい認識を持って頂き参加者で議論をしたい。第3回はその認識に基づいて生田緑地の植物の扱いについて議論をする。
- ・ マネジメント会議に参加していない方、運営会議に参加している方等も新たなメンバーとして迎えたい。
- ・ 自然会議のシステム、メンバーの位置づけについてはこれから協議したい。

○その他【倉本先生のお話】

- ・ どうして植物を持ち帰ってはいけないのか？
- ・ その場にいる生物が減るだけでなく、場所によって生物の遺伝子の構成が違うので、少しずつ違う遺伝子を持つ生物のバランスが変わり、自然の秩序を壊すこ

とになるためでもある。

- ・ 1983年の伊豆大島での調査で在来種（オオシマツツジ）と園芸種（オオムラサキツツジ）が生育していたが、両者と異なるツツジとして報告のあった種は、両者の中間で、雑種であることが分かった。オオムラサキツツジのような園芸品種が伊豆大島のかなりの場所で生育していた。
- ・ オオシマツツジを守っていく為には、もっとツツジ類の植栽に気を付けなければならない。今までオオシマツツジという品種だと思われていたツツジが雑種だとわかった。伊豆大島特有のツツジを保全するためにも、園芸種の植栽は規制する必要がある。
- ・ 最近の研究で、遺伝子レベルでの交雑が起こっており、植物の世界を混乱させていることが分かってきた。
- ・ 動物の世界でも同様に、生田緑地のホトケドジョウについても当てはまる。
- ・ 系統の違いは遺伝子の違いであるので、今後議論をしたいと考えている。

（会員）

- ・ 生田緑地のホタルなども遺伝子の交雑は起っているのか？

（自然会議副会長）

- ・ 動物での遺伝子の交雑はさらに深刻で、交雑によって次の個体が生まれないこともある。ホタルなどは非常に多い。

（自然会議会長）

- ・ 植物と動物は、形態も異なる。動物は丸いが、植物は薄い。動物は色々なものから栄養を取り入れるが植物は光りと水から栄養を作り出すなどいろいろなことが違う。
- ・ 次回の講義を担当する大学院生はツツジ類の研究をしており、説明をする学生にも参加者にとってもためになるのでぜひ参加してほしい。

（会長）

- ・ 今後も生田緑地の管理に関わることで学習会のようなことを行いたいので、話題提供をお願いします。

○その他【マネジメント会議会員からの情報提供】

＜多摩区観光協会について（多摩区観光協会）＞

- ・ 多摩区観光協会は1948年に梨もぎを対象として発足した。かつてはバスが何十台も訪れるようなこともあった。
- ・ 1年半の検討を経て、3つの団体を一つにまとめた。
- ・ 今後は多摩区の姉妹友好都市との交流なども進めたい。

＜多摩区切手作成について（多摩区地域振興課）＞

- ・ 多摩区観光協会の設立記念イベントを9月21日に多摩市民館大ホールで開催する。子育てまつりの開催日と合わせ、多摩区の郷土芸能、スポーツ、ゆるキャラ撮影会、多摩区の紹介スライド上映を行う。
- ・ 昨年、生田緑地の（オリジナルフレーム）切手が作成されたが、多摩区観光協会

設立記念として多摩区観光切手を作成する。10枚セットで1230円で、神奈川県内で1000部を販売する予定である。

- ・ 写真の候補は多くあり選択にはかなり苦労したが、二ヶ領用水サクラ並木、獅子舞、よみうりランドなど、生田緑地からは奥の池を選定した。
- ・ 観光切手としての地域の観光資源なので皆さんにも買って頂き、第2弾、第3弾の発売につなげたい。

<みどりの上映会について（多摩区地域振興課）>

- ・ 第1回運営会議の自主事業計画書の記載から、名称と開催日の変更があったので説明をする。
- ・ 8月3日の生田緑地サマーミュージアムと同日開催とした。上映作品は、多摩区にゆかりのあるウルトラマンとウルトラセブンとした。場所はゴルフ場の18番ホール脇の傾斜地でスクリーンを設置し上映する。

<TAMAフェスティバルについて（多摩区商店街連合会）>

- ・ 前回のマネジメント会議では10月に開催すると案内をしたが、商店会での協議の結果、残念ながら取りやめることとなった。
- ・ 今年度は、多摩区民祭において被災地の物産の安全性に関するブースを出すことを検討している。

<市民100万本植樹運動植樹祭について（みどりの協働推進課）>・・・資料

- ・ 第1回の運営会議で説明した通り、県と開催に向けて協議をしている。
- ・ 10月26日（日）に、西口園路と中央広場にて植樹する。天皇皇后両陛下がお手播きをされた樹木の贈呈式、表彰式、贈呈された樹木の植樹である。
- ・ 展示として7つか8つのブースの設置を予定している。場所を提供するのでマネジメント会議でも出展してPRをしてほしい。
- ・ 西口園路脇の用地にて300本～400本の植樹を予定している。樹種は生田緑地で採取して育苗した苗を利用する予定である。植樹の場所については配付資料の地図を参照してほしい。
- ・ 植樹祭にマネジメント会議会員の皆様も参加して欲しい。また会長と副会長も招待したい。

（会員）

- ・ 平成22年のばら苑での植樹祭の開催はみどりに関わる市民団体のブースを多数出していたが、今年は小規模なのか。

（みどりの協働推進課）

- ・ 平成22年度は全国植樹祭のサテライト会場としての実施だったが、今回は規模は小さくなる。植樹する本数も限られるので、植樹する人を事前申し込み制にする予定である。

（日本民家園園長）

- ・ 民家園でも10月26日は大きなイベントがあり、駐車場の利用が多いことが予想されるのでご配慮を願いたい。

（会員）

- ・ 植樹をする樹種の中で交雑するような木はないのか。
- ・ 生田緑地憲章に触れる内容なので、協議を十分にする必要があったのではないか。
- ・ 「持ち込まない」の原則からは逸脱している内容ではあるので、事前に相談してほしい。

(みどりの協働推進課)

- ・ 生田緑地で採取した苗木を用いるので他の地域種との交雑はない。
- ・ その他の苗木も、神奈川県産のものを利用することになっている。

(会長)

- ・ マネジメント会議として展示ブースを出すか。
- ・ 当日は会員も多くのイベントに出ておりケアが難しいので、今回は取り止めとしてどうか。

→異議なし

<サマーミュージアムについて（指定管理者）>

(生田緑地運営共同事業体協働担当)

- ・ チラシを専修大学インターンシップ生と一緒に作成した。
- ・ 生田緑地全体で開催するので朝から夜まで楽しめるイベントである。
- ・ 「まち・自然・文化の輪」をテーマとして、夏休みの子どもたちが参加して楽しめる内容にしている。

(岡本太郎美術館副館長)

- ・ 当日の夜は上映会があるので美術館のチェーンは開けておいた方がよいか。
- ・ エレベーターを稼働させる場合には、あらためて協議をして欲しい。

<ぐるっとガイドツアーの経過報告>

(事務局)

- ・ 生田緑地に関する歴史と文化に関するニーズがあるので、希望者のサポートによるガイドの検討をしている。
- ・ 専修大学から課題解決型インターンシップへの協力要請があり、JVでサポートをしている。8名の学生と一緒に5月19日から活動を行い、5月24日にばら苑への案内活動を行った。今後、生田緑地と3館を見てもらいながら、2週間に1回程度の活動を行っていく。
- ・ 9、10月にガイドの試験ルートを設定し、11月頃に実施するお試しツアーにはマネジメント会議の会員に案内をしたい。

<スポーツ推進審議会からの生田緑地のウォーキング利用者へ距離表示をする提案>

(生田緑地整備事務所)

- ・ スポーツ推進審議会委員から生田緑地でウォーキング利用者用に距離表示を掲示する話があった。まずはコア会議で検討して、マネジメント会議で協議をしたいと考えている。

(自然会議副会長)

- ・ 案の中身についてマネジメント会議で検討するのは違うのではないか。

(生田緑地整備事務所 所長)

- ・ マネジメント会議で検討して良い反応であれば、専門家から提案を受けたいと考えている。

(自然会議副会長)

- ・ 生田緑地のおすすめコースが既にあるが、里山倶楽部の参加者から外周コースを入れたらどうかというような提案も出ている。新しい発想で再度考えて計画を立てれば、しっかりとした整備ができる。

<生田緑地のインターネットによる情報発信について>

(生田緑地運営共同事業体広報担当)

- ・ ホームページを中心にブログ、Facebook、Line@、メールマガジンなどで情報発信をしている。
- ・ 多くの人が見てくれると評価につながるので、ご家族やご友人、会社の友人などにもぜひ見てもらいたい。
- ・ 来園者にもカードを配って閲覧者の数を上げる取り組みを進めていくので、ぜひ協力してほしい。

<その他>

(商業観光課)

- ・ 8月23日に多摩川花火大会を開催する。
- ・ 協賛席もあるので参加して欲しい。

○今後の予定

(事務局)

- ・ 9月末から10月上旬に次回の会議を開催したい。
- ・ 来週8日にプロジェクト会議(案内プロジェクト)も開催するので参加して欲しい。

以上